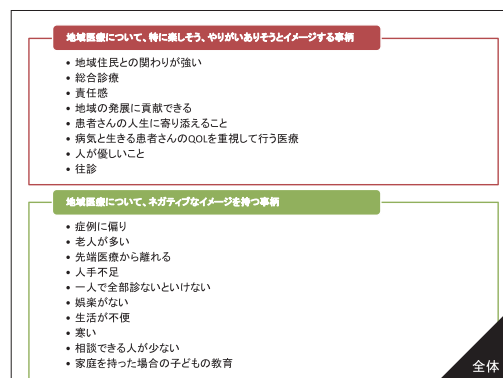
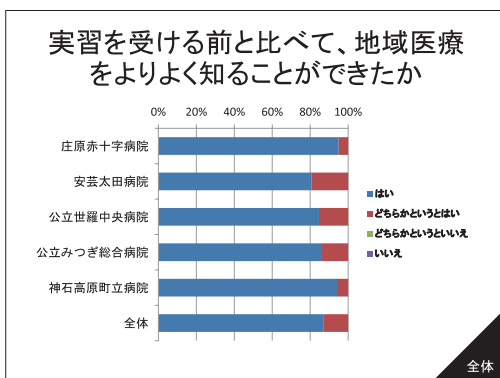
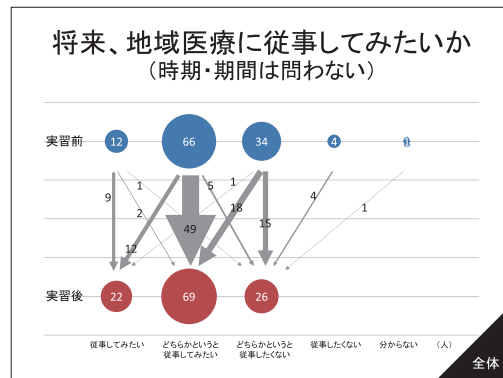
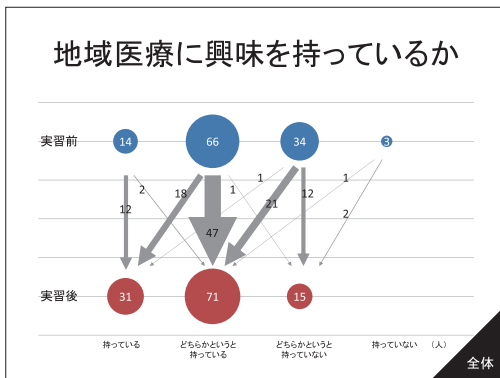
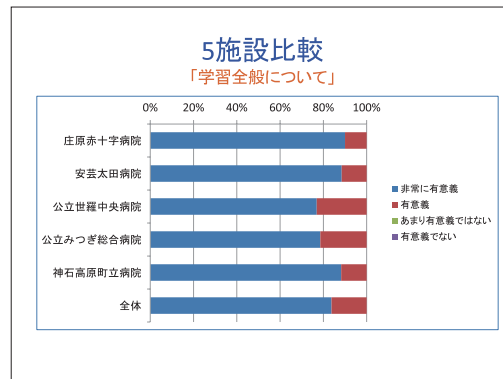
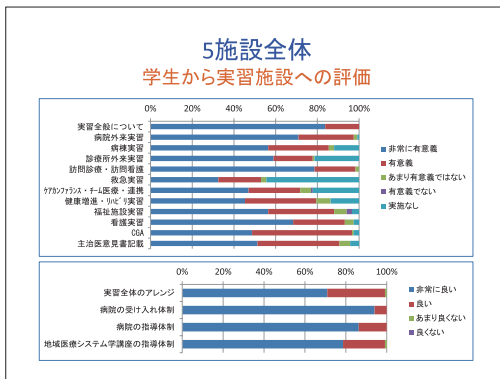


## B 一般医学科生の教育

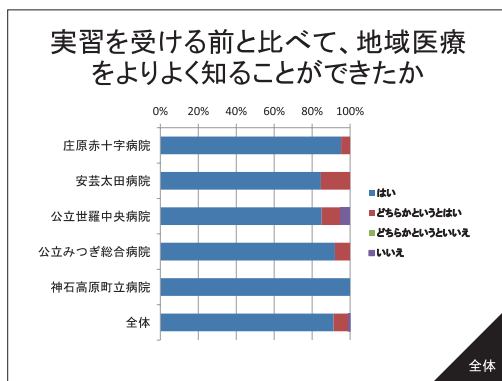
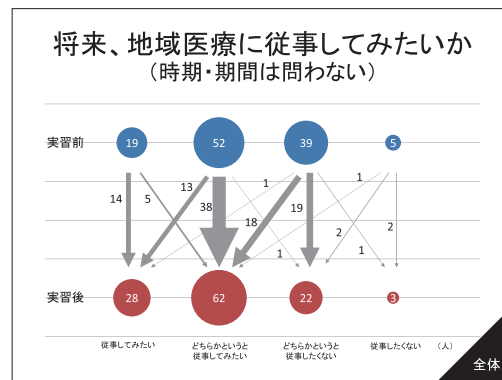
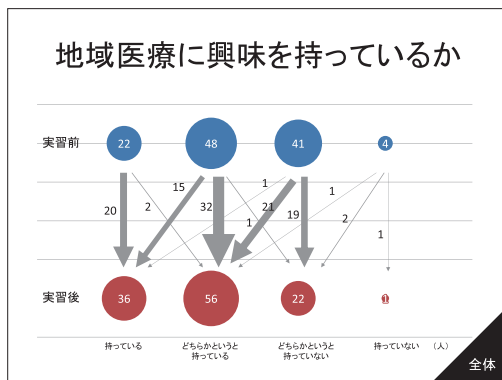
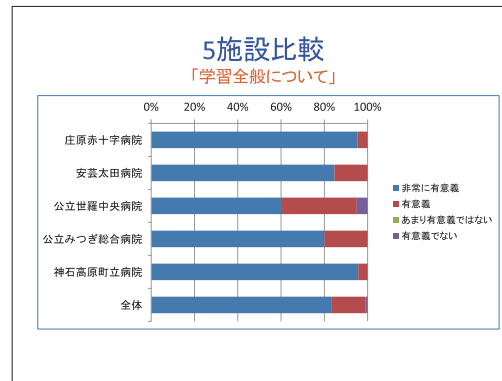
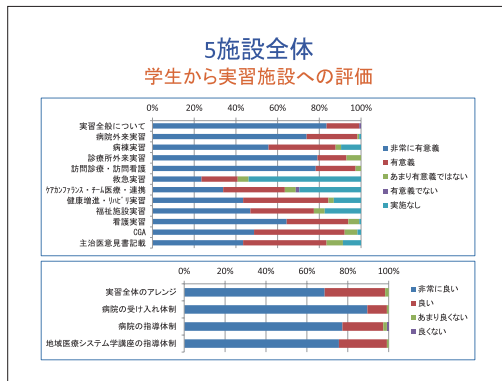
### ①5年生地域医療実習

一般医学科5年生に対しては平成22年度よりクリニカル・クラークシップの一環として、中山間地の病院に一週間泊まり込みで行う地域医療実習を開始致しました。

平成26年度は5年生約120名全員が2名ずつに別れて庄原赤十字病院、安芸太田病院、神石高原町立病院、公立世羅中央病院、公立みつぎ総合病院のいずれかで4泊5日の現地泊り込みの実習を行いました。外来実習、看護体験、診療所見学、在宅訪問、高齢者施設見学、1次救急、ケアカンファランス等々、文科省のモデル・コア・カリキュラムを参考に、各病院の特徴をだしたプログラムを作成しました。当講座スタッフも週1回現地に赴き学生教育に携わりました。ほぼ全員の学生がこの実習により地域医療をよりよく知ることができたと評価し、実習前後で比較すると35%が地域医療に興味が増し、31%が将来地域医療に従事する意向が増加しました。



平成27年度も5年生全員が2名ずつに別れて庄原赤十字病院、安芸太田病院、神石高原町立病院、公立世羅中央病院、公立みつぎ総合病院のいずれかで4泊5日の現地泊り込みの実習を行いました。外来実習、看護体験、診療所見学、在宅訪問、高齢者施設見学、1次救急、ケアカンファランス等々、各病院にプログラムを実行していただきました。当講座スタッフも週1回現地に赴き学生教育に携わりました。ほぼ全員の学生がこの実習により地域医療をよりよく知ることができたと評価し、実習前後で比較すると33%が地域医療に興味が増し、29%が将来地域医療に従事する意向が増加しました。



**地域医療について、特に楽しそう、やりがいありそうとイメージする事例**

- 一人で問診・診断をしていく
- プライマリ・ケア
- 現在の日本の抱える最も大きな問題に取り組める
- 地域住民のかけがえのない存在になること
- 訪問診療
- 家族背景も把握しながらする医療
- 多職種連携
- 患者の生活面までサポートできる

**地域医療について、ネガティブなイメージを持つ事例**

- 狭い人間関係に疲弊しそう
- 娯楽がない
- 多忙
- 家庭を持つと地域に住むのは難しい
- 責任が重そう
- 先端医療が学びにくい
- 人手不足
- 田舎

## ②4年生講義

平成26年度、27年度と臨床実習入門プログラムにおいて、地域医療実習に関する講義を竹内、松本がそれぞれ1コマずつ行いました。帝京大学の井上和男教授にも1コマ担当いただきました。

## ③3年生講義

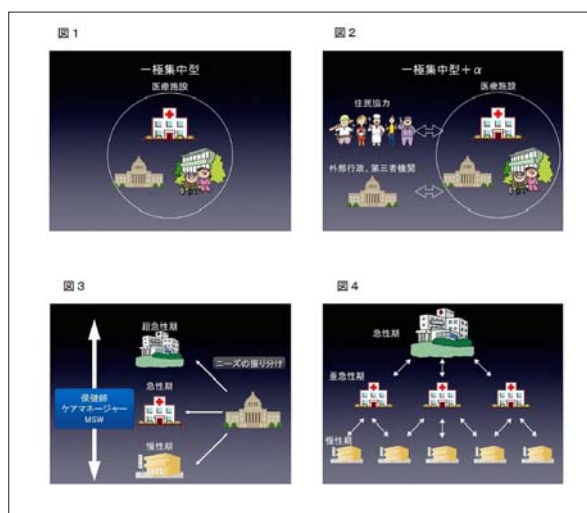
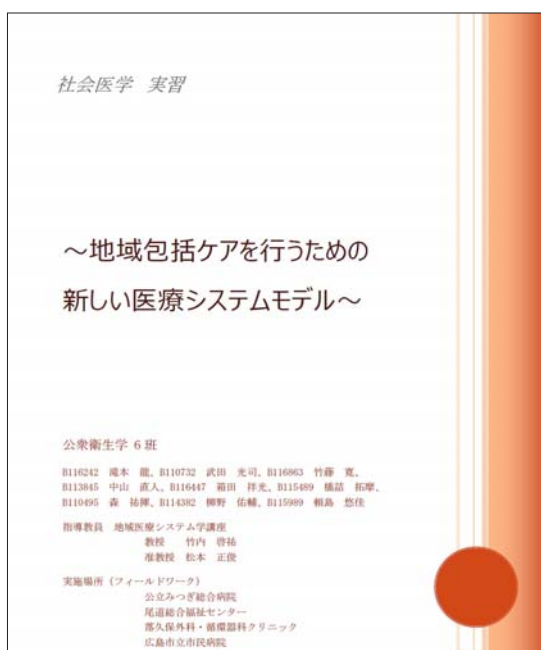
平成26年度、27年度と器官・システム病態制御学において、竹内は「地域医療」と題して日本国内の地域医療の現状や総合医育成の動きについて、松本は「世界の地域医療」と題して諸外国の地域医療の実情について説明しました。また愛媛大学地域医療学講座の川本龍一教授にお越しいただき愛媛県の地域医療の現状と対策について講義していただきました。

## ④1年生講義

医学科1年生を対象に竹内が「高齢者医療における倫理」と題して講義しました。

## ⑤4年生社会医学実習

平成26年4月～5月、医学科4年生9名を受け入れ、研究指導を行いました。公立みつぎ総合病院、尾道総合福祉センター、落久保外科・循環器クリニック、広島市民病院でインタビューを行い、都市型と地方型の地域包括ケアの在り方について調査しました。



平成27年4月～5月、医学科4年生8名を受け入れ、研究指導を行いました。広島大学病院、大崎上島消防署でインタビューを行い、ドクターヘリと救急艇の設備、出動回数、コストなどを調査しました。その結果を踏まえて離島における効率的、効果的な救急搬送のあり方について考察、提言を行いました。

社会医学実習

**大崎上島における救急医療システムの考察**  
第6班

池田昂輝 (b124300) 市場尊嗣 (b125878)  
川口修平 (b126536) 五島寛治 (b120385)  
島岡高宏 (b122595) 高木結基 (b124183)  
高田善章 (b122091) 兼行恵太 (b124298)

指導教員 地域医療システム学講座  
教授 竹内 啓祐  
准教授 松本 正俊

実施場所 広島大学病院  
大崎上島消防署

実施期間 127年4月9日～127年5月22日

**まとめ**

一見ドクターヘリは高額な予算を割かれているように見えるが、実際は後にも触れるが、広島県全域を30分の飛行でカバーすることができるのでこのドクターヘリがあることにより助かる命があると考えるとそこまで高額ではないだろう。ドクターヘリが飛ばずに、救急車で運んだことにより、後遺症が残り、ドクターヘリが飛んだ場合より医療費がかかるというケースもあるようで、予算という観点から比較した場合、ドクターヘリは救急医療に欠かせないものであると結論づけてよいだろう。

**2. 医療を施されるまでの時間**

<ドクターヘリ>  
出勤要請～出勤まで 4.56分<sup>2)</sup>

大崎上島はドクターヘリで15分圏内に位置

<救急車>  
覚知から現場到着まで6.2分<sup>3)</sup>  
白水港→竹原港 約20分<sup>2)</sup>  
竹原港→収容先 三原赤十字病院 30分  
東広島医療センター 44分

大崎上島の住民が一定以上の規模の病院にアクセスするにはとても時間がかかっている。このことを裏付けるように、事項の資料は大崎上島において、t-PA、クリッピング、PCIの目安時間を100%達成できていないことを示している<sup>4)</sup>。

## ⑥6年生卒業試験OSCE

医学教育センター兼務の松本が平成26年度、27年度の卒業試験OSCEの企画・運営を担当し、ステーション責任者や評価者の依頼、シナリオの取りまとめ、模擬患者との連絡、評価などを行いました。また竹内は実行委員長を担当しました。

## ⑦6年生卒業試験

松本が医学教育センターの業務として平成26年度、27年度の卒業試験の企画・運営を担当しました。卒業試験は平成26年度に大きく形式が変更され、複数科のブロック制によるマークシート試験になりました。この移行に伴い、試験問題作成依頼、問題の取りまとめ、試験の実施、採点、評価などを行いました。

## ⑧5、6年生アドバンスト臨床実習（臨床実習Ⅱ）

松本が医学教育センターの業務として平成26年度、27年度のアドバンスト臨床実習（臨床実習Ⅱ）の企画・運営を行いました。アドバンスト臨床実習は平成27年度から学外施設の参加を大幅に増やしたため、これに伴う各病院との連絡、実習日程のアレンジなども行いました。

## ⑨4年生臨床実習入門プログラム

平成26年度、27年度4年生臨床実習入門プログラムの企画、作成を行いました。また、プログラム内の採血実習、医療面接実習を担当しました。

## ⑩共用試験OSCE

竹内が実行委員長を担当しました。

### ⑪4年生医療面接実習（OSCE）

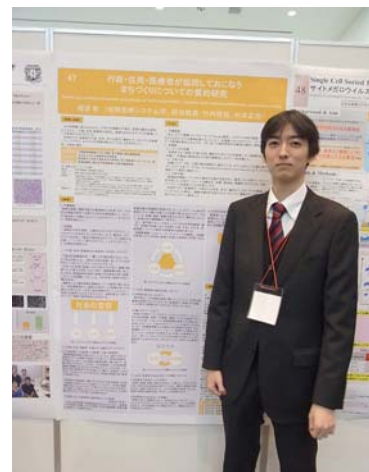
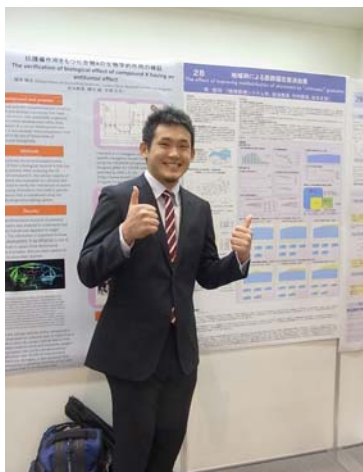
平成26年度、27年度医学科4年生の臨床実習入門プログラムにおいて、総合診療科とともに医療面接実習に関わり、共用試験（OSCE）を担当しました。

### ⑫1年生医療行動学

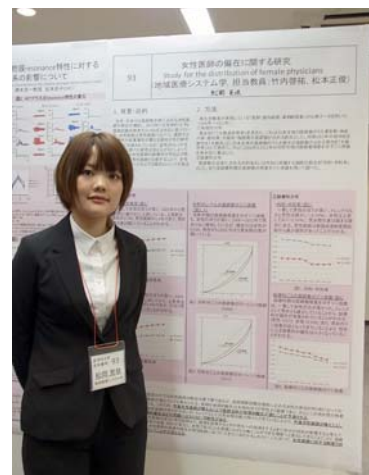
平成26年度、27年度医学科1年生を対象に医療行動学実習を5名ずつ2回実施しました。大学病院外来を患者の立場で移動して動線を確認し、患者受療行動や地域医療について話し合いました。

### ⑬4年生医学研究実習

平成26年度は2名の学生の担当講座となり、研究指導を行いました。1名はふるさと卒出身医師が県内の医師数および医師偏在に与える影響をシミュレーション解析しました。この研究は後日、論文として学術雑誌に掲載されました。もう1名は北海道、千葉、岡山での医療者による町づくりの事例について関係者からの聞き取り調査のデータをもとに質的研究を行いました。



平成27年度も2名を担当し、1名は女性医師の診療科偏在、地理的偏在に関する研究を行いました。もう1名は基本健診およびがん検診の受診率に関連する地域特性の研究を行いました。



### ⑭他大学講義

26年度に山口大学医学部3年生に松本がへき地医療の講義を行いました。